

第七回 忠順大賞

(平成二十四年度)

寒つばきわが家の庭でりと咲く

家族を守る母と重なる

年度)

入賞作品

- ・応募作品 一八一〇首
- ・荒川心星先生 選評

小学生の部

豊田市長賞

堤小六年 藤田 紗歩

冬の朝はつばを見るとしもばしら

「かぜひかないで」と父おくり出す

※下の句の父を思いやる行為がそれ

にふさわしい風景を得て心を打たれる歌になった。

豊田市教育委員会賞

堤小六年 杉浦なつ子

うすが目に見えてくる。下の句がいいですね。

会長賞 銅賞

堤小二年 野上 あい

あおぞらにあたっているよだいこんが

たいようあびてげんきにそだつ

※たいようをあびているだいこんが目に見えてくる。上の句がすばらしいですね。

中日新聞社賞

堤小二年 山中 あいな

あお空にてらされてるよ大こんが

みんなでほしたきものよう

※「みんなでほしたきものように」の表現がすばらしい。切り干し大根もよろこんでいる。

優秀賞(四名)

駒場小三年 新屋 元夢

いもうととけんかしたよるねがおみて

て

あすはなかよくしたいとおもう

駒場小三年 野田 ななえ

おかあさんいつもプンプンしてるけど

ほんとはとてもやさしいんだよ

堤小四年 峯岸 万響

みんなだね女川にはいっておべんき

よう

いっぱいみつけた女川のふしぎ

たいようの下であったかそう

※きりぼし大こんの干されているよ

ねころんで

晴れた日にきりぼし大こん

堤小二年 中嶋 ゆうと

会長賞 銀賞

※寒桜を見て母の立ち姿とみたてた

やさしい思いやりの歌である。

われを育てた母の立ち姿

堤小六年 長谷川 桃香

会長賞 金賞

北風に負けじと立たずむ寒桜

## 中学・一般の部

堤小四年 都築 圭人

木や風がきせつによって大変身

どきどきわくわくぼくの通学路

豊田市長賞

藤岡飯野町 伊井 松美

土づくり種からそだて野菜米

健康ならと今日も野良着に

※歌意がはっきりしていて快い。その心意気が共感を呼ぶ。下の句に万感の思い。

豊田市教育委員会賞

前林町 甲村 サカエ

半世紀飾り続けし三代の

雛（ひひな）は家族の絆となりぬ

※一首の姿が端正で美しく仕上がっている。下の句に深い思いが記されている。

会長賞 金賞

前林中三年 両金 紋加

友達と過ごした時間忘れない

キラキラ光るアルバムにつめて

※なんでもないことをさりげなく言い、一首を作り上げている。結句が光っている。

会長賞 銀賞

前林中三年 塩屋 亜理沙

ときがすぎちちのせなかをみつづける

じりつするまでつたえるすがた

※一つ一つの言葉がそれぞれにひびき合い力強い歌になっている。

会長賞 銅賞

前林中三年 正木 泰斗

なぜこうもひとはかわってしまったのか

ふとおもいけりかれくさなびく

※友人の変わりようを嘆いているよ  
うだが、結句の「かれくさなびく」  
の表現がよく、明るくなっている。

中日新聞社賞

前林中三年 田中 雄大

おやのあいぼくのためだとわかって  
も  
すなおになれずただくやくしくて

※簡潔な表現ゆえに作者の気持が  
感覚的に伝わってくる。

優秀賞（二名）

前林中二年 杉山 和樹

じいちゃんはむかしのはなし



してくれる

ぼくもこのまちだいにするよ

前林中二年 石川 静音

しんゆうとほんねかわして

なかなおり

こころはれるがほほにはなみだ

なりました。

今年は総数一八一〇首の応募を頂くことができました。三月一日事務局での第一次審査を経て、俳人協会会員の荒川心星先生による最終審査により十八名の方が入選されました。おめでとうございます。また先生には講評も添えていただきました。

今年も三十一文字に込められました日常のなんでもない風景から生まれる、心温まる人と人との繋がりが伝わってくる沢山の短歌に出会うことが出来ました。応募していただいた作品を拝見しながら、事務局一同心豊かに楽しい時間を過ごせたことに感謝いたします。

応募して下さった大勢の方々、授業、行事等で大変お忙しい中、指導、協力して頂いた小、中学校の先生方に感謝いたします。事務局 川村

\* \* \* \*

郷土の偉人、村上忠順翁を地域の方々にもっと広く知っていただくにはどうしたらよいかという話から始まりました「忠順大賞」も七回目と